

土木系学生の建設資格に関する意向調査

(財)全国建設研修センター

正会員 安孫子 義 昭

○ 正会員 榊 山 清 人

1.はじめに

本研究では、土木施工管理技士を近い将来受験する可能性の高い学生を対象として、土木施工管理技士に関する設問を中心に、一般建設資格の設問も含めた現段階での学生の意識調査を行った。アンケートは、大学 5,321 人、短大(工・農学部) 349 人、高等専門学校 600 人、専修学校 1,278 人、高等学校(土木系学科・農業土木系) 9,657 人の学生から回答が得られた。

2.当センターが実施する試験について

(a)土木施工技術者試験に対する認識(表-1)

土木施工技術者試験は指定学科の高校生が受験可能になっており、2級土木学科一部免除を知って受験した学生は、工業高校の割合が若干多く、全体でみても、知って受験した学生は5割強、あまり・全然知らないで受験したという学生も5割弱でほぼ同程度の結果が得られた。

表-1 土木施工技術者の受験について(%)

	工学系	農学系	計
知って	52.2	48.3	51.1
あまり知らないで	24.7	24.7	24.7
全然知らないで	23.1	27.0	24.2

(b)土木施工管理技士

資格に対する認識(表-2)

土木施工管理技士の資格内容について、大学、短大、高専では、3～4割程度にしか知られておらず、専修、高校は「ある程度」「詳しく」を合わせて知っているという回答した学生は6～7割程度である。これは、土木施工管理技士の試験が一部免除となる土木施工技術者資格の存在が影響していると推察される。

表-2 土木施工管理技士の内容について

順位	1	2	3
大 学	知らない	ある程度	詳しく
短 大	知らない	ある程度	詳しく
高 専	知らない	ある程度	詳しく
専 修	ある程度	知らない	詳しく
高 校	ある程度	知らない	詳しく

また、農学部(大学・短大)の学生は、7割強が土木施工管理技士の内容については知らないという回答している。

資格に対する興味(表-3)

アンケート用紙では、の設問の後に土木施工管理技術検定について、資格内容、受験資格、試験科目を簡単に説明し、設問を行った。その結果、学校別に関係なく資格に関する情報を得たことで、資格に対する興味が「わいた」「なんとなくわいた」と回答した学生は、7～9割と高い値となった。一方、高校の場合は「わからない」という回答も3割強あった。

表-3 土木施工管理技士の興味について(%)

	わいた	なんとなく	わからない
大 学	42.1	44.2	13.7
短 大	37.2	44.1	18.6
高 専	32.7	48.7	18.6
専 修	49.3	44.2	6.5
高 校	22.3	44.6	33.1

受験希望(表-4)

大学、短大、高専、高校では、「受験資格を得たらすぐ受験したい」が4割前後、「社会人になってから考える」が2～3割という回答であったが、専修では「受験資格を得たらすぐ受験したい」が7割強と高い値を示した。

表-4 土木施工管理技士への受験について(%)

	即受験	社会に出て	わからない
大 学	42.0	33.0	16.3
短 大	46.8	22.4	21.0
高 専	39.8	34.4	18.1
専 修	74.7	14.0	9.0
高 校	42.5	19.5	21.2

3.建設関連資格一般について

(a)資格に対する認識(複数回答)

資格名(表-5)

建設事業に関連する代表的な国家資格や大臣認定資格を10資格取り上げ、その中から知っている資格名を選んでもらったものである。

学校別に関わらず測量士が9割、土木施工管理技士が8～9割、建築士が6～7割という高い数値となった。ただし、高校の設問には、受験可能な危険物乙種を入れ

表-5 建設資格の認知度について

順位	1	2	3
大 学	測 量 士	建 築 士	土木施工管理技士
短 大	測 量 士	土木施工管理技士	建 築 士
高 専	測 量 士	土木施工管理技士	建 築 士
専 修	測 量 士	土木施工管理技士	建 築 士
高 校	測 量 士	危 険 物 乙 種	土木施工管理技士

キーワード：施工管理、建設資格、土木系学生、意向調査
連絡先：建設研修総合研究所

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-32 TEL 03-3581-572 FAX 03-5521-6255

たため 9 割弱となった。また、技術士については大学、高専が 7 割弱、短大が 5 割強、専修が 4 割強、高校が 2 割と差がでた。

知り得た理由（表 - 6）

の資格名をどのように知ったのかを設問した結果、高校以外は知り得た理由の 1、2 位の順位はかわらず、「講義によって」「親・兄弟等の身近な人に聞いて」という回答が 5 割強を占めた。高校については、「学校紹介で」という回答が 6 割強で、高校在学中に受験できる土木施工技術者試験に関係しているものと考えられる。

知り得た時期（高校を除く）（表 - 7）

学校別に関わりなく高校以前と 1 学年にという回答が 5 ～ 8 割で、比較的早い時期に建設資格を知っていることがわかった。これは、知っている上位の資格と照らし合わせると高校以前に知った資格は一般的にも知られている建築士ではないかと推察される。

(b) 在学中の動向

在学中の受験経験（表 - 8）

在学中に資格を受験したかについては、大学、短大、高専で 1 割前後しか受験した経験がない。一方、専修は 4 割強経験があり、他と比較して受験した学生が多く、工業・農業高校からの進学者によるものと考えられ、8 割弱が受験したと回答された高校の結果からも伺われる。

受験資格名（表 - 9）

で受験経験があると回答した学生は、学校別に関わらず測量士（補）、土木施工技術者試験が多く、両資格を合せると 8 ～ 9 割の学生が受験したことになる。特に、測量士（補）については、高専で 8 割弱、専修で 6 割弱の学生が受験している。

受験理由（表 - 10）

受験した理由を回答してもらったもので、学校別に関わらず、「学校側から受験するように言われたから」が 4 割前後、「将来役立つと思われたから」が 2 ～ 3 割という結果になった。

4.まとめ

上記設問以外の建設資格に対する自由意見を踏まえると以下のとおりとなる。

土木施工管理技士の内容については、土木施工管理技士の目的や仕事上の必要性などを紹介したうえで、興味や将来の受験について回答を求めた。その結果、興味についてはわいた・なんとなくわいたと回答した学生は大学・短大・高専・専修・高校で 7 ～ 9 割という値を示した。また、将来の受験についても即受験したい・社会人になったら考えたいというように前向きな回答が 8 ～ 9 割にも及んだ。この結果、学生は土木施工管理技士の資格のみならず他の建設資格についても情報を得ることを望んでおり、情報を早期に得ることによって現在よりも一層資格に対する親密さが増し、真剣に見つめてくれることがわかった。同様に将来建設事業に携わろうと考えている学生は資格の必要性・社会的評価、自己目標など資格取得に対する位置づけが明確になされているようである。また、実務経験については、必要であるという意見と緩和してほしいという意見に分かれる。必要であるという意見でも経験年数については短縮を望む声がかかなり多い。これは、建設事業に携わるうえで必要不可欠な資格だからこそ、エンジニアの早期育成を図るため、在学中にも受験可能にしてほしいというものや試験合格後例えばインターン期間で実務経験を踏んだ後資格を付与してほしいという意見も見受けられた。建設資格全般については、世界に通用する資格を望んでいる一方、国家試験に対しては難しいといったイメージを持っているようである。資格制度の存在については、個人能力、技術者としての社会的地位の向上などの理由から肯定的な意見が半数以上あるが、資格の統一や細分化といった相反する意見も見受けられた。また、資格者の質や有用性については、建設資格そのものだけが先行し、資格と実際の技術力との乖離について指摘されている。今後これら指摘に対しての検討が必要である。

表 - 6 建設資格を知った理由について

順位	1	2	3
大 学	講義にて	身近な人	建設図書
短 大	講義にて	身近な人	建設図書
高 専	講義にて	身近な人	研究室等
専 修	講義にて	身近な人	所属学科
高 校	学校紹介	講義にて	ポスター等

表 - 7 建設資格を知った時期について

順位	1	2	3
大 学	高校以前	1 学年	2 学年
短 大	高校以前	1 学年	2 学年
高 専	高校以前	1 学年	2 学年
専 修	1 学年	高校以前	2 学年

ただし、高専の場合は 3 学年まで高校の規定と同等

表 - 8 建設資格の受験経験（％）

	あ る	な い
大 学	8.3	91.7
短 大	17.9	82.1
高 専	10.4	89.6
専 修	41.1	58.9
高 校	79.5	20.5

表 - 9 受験経験資格（％）

	土木施工技術	測量士（補）
大 学	31.4	48.8
短 大	50.0	38.0
高 専	16.9	75.3
専 修	33.8	56.6
高 校	26.5	30.0

表 - 10 受験理由

順位	1	2	3
大 学	学校より	将来役立つ	資格の所持
短 大	学校より	将来役立つ	資格の所持
高 専	学校より	資格の所持	将来役立つ
専 修	将来役立つ	学校より	建築士
高 校	将来役立つ	学校より	資格の所持